



桜切らぬ馬鹿？

サクラに関する有名なことわざに「桜切る馬鹿、梅切らぬ馬鹿」というものがあります。これは、サクラは枝を切るとその切り口から菌等が入りやすく腐りやすいこと、ウメは余分な枝を剪定しないと樹形が悪くなり、花や実の付きが悪くなることから由来と言われています。

ただし、この言葉は必ずしも正しいものではなく、サクラでも剪定を行った方がよい場合があります。では、どんな場合にサクラの剪定を行った方がよいのか、ここではその一例を紹介します。

昔から街路樹や公園樹木として親しまれてきたサクラですが、近年は樹齢が50年以上のサクラの並木等も増えています。老齢木になると樹勢が衰えていくため、花が少なくなる、枝葉の伸びが悪くなる、枯れ枝が増えるといった症状が現れます。



衰弱した枝



勢い良く伸びる若い枝

衰弱した枝を維持することはサクラにとって負担であり、これらの枝を剪定し、勢いの良い若い枝に養分や水分を集中させることで樹木の活力を回復させることができる場合があります。大きさは元よりもコンパクトになりますが、状態の良い枝で樹冠を再構成することができるため花付きも良くなります。青森県弘前市の弘前公園で実践されている方法が特に有名で、衰弱した枝を大胆に剪定し、施肥により十分な養分を与えることで新しい元気な枝を育てるといった管理が行われています。

ただし、どんなに丁寧に管理をしていても植替えが必要になる日は必ず来ます。この先もサクラを長く楽しむようにするために将来を見据えて植替えも含めた管理方針を検討し、計画を立てることが重要です。